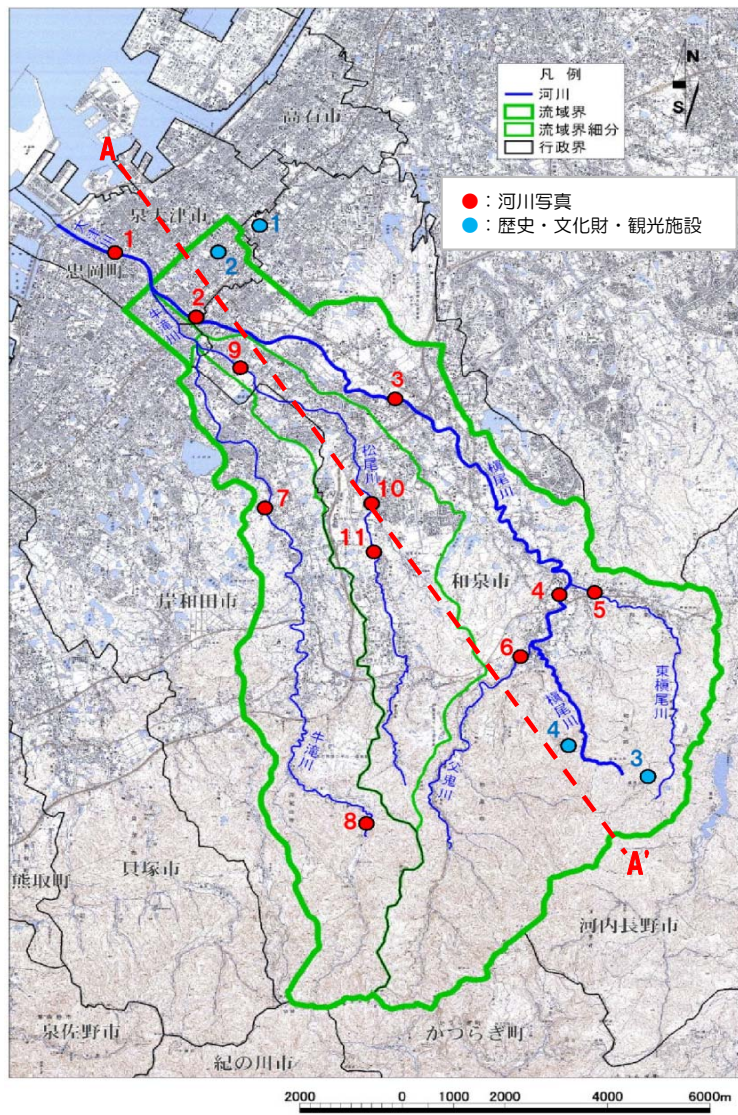
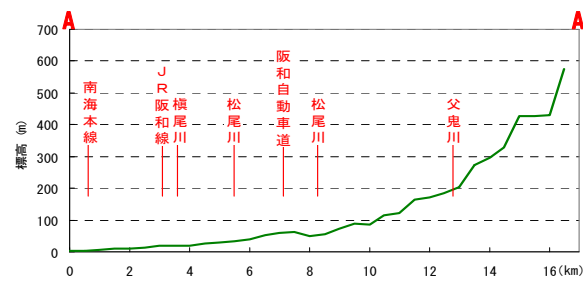


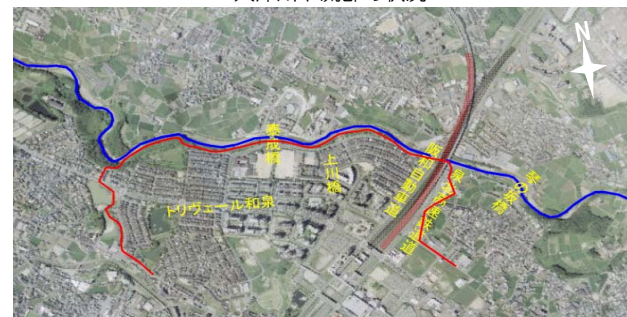
流域の概要

- 流域市町：和泉市・岸和田市・泉大津市・忠岡町
- 指定区間延長56.6km、流域面積 102.2km²（府域最大二級水系）
- 下流部→市街地/中流部→丘陵地開発/上流部→自然豊か（金剛生駒紀泉国定公園に指定など）

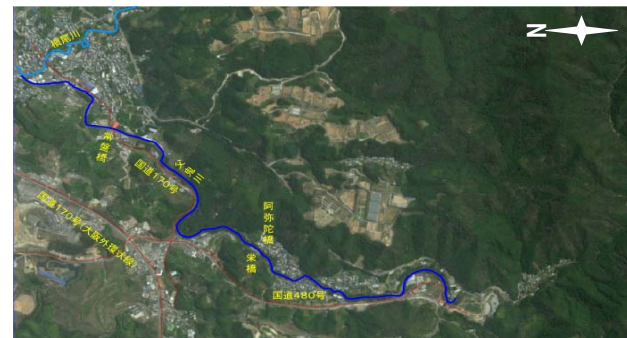
河川名	指定区間延長 (km)	流域面積 (km ²)
大津川	2.6	102.2
横尾川	18.3	56.7
父鬼川	3.2	19.7
東横尾川	2.6	10.6
牛滝川	17.5	45.4
松尾川	12.3	18.0
計	56.6	102.2



大津川下流部の状況



横尾川中流部の状況



父鬼川上流部の状況

河川の特長

- 大津川・・・市街化の進展した地域における貴重な親水空間（高水敷は河川公園）
- 横尾川・・・下流→市街地内を流れ、川幅が広く緩傾斜護岸/中流→農地内を蛇行/上流→集落内を蛇行
- 東横尾川・・・横尾川合流点→集落内を流下/上流→山地部を流れる渓流の様相
- 父鬼川・・・横尾川合流点→集落内をゆるやかに蛇行/上流→山地部の谷間集落を流れる自然河川
- 牛滝川・・・下流→市街地内を流下（高水敷は河川公園）/中流→宅地や農地内をゆるやかに蛇行/上流→山地部を流れる渓流の様相
- 松尾川・・・下流→住宅地及び農地内を流れ急勾配の高い護岸/中流→旧河川敷での公園整備/上流→宅地や農地内を蛇行



1. 橋並橋上流（大津川）



2. 国道26号付近（横尾川下流部）



3. 上川橋付近（横尾川中流部）



4. 神田橋付近（横尾川上流部）



5. 上川橋付近（東横尾川）



6. 常盤橋付近（父鬼川）



7. 山谷橋付近（牛滝川中流部）



8. 紅葉橋付近（牛滝川上流部）



9. 前川橋付近（松尾川下流部）



10. 久保惣橋付近（松尾川中流部）



11. 庄ノ川橋付近（松尾川中流部）

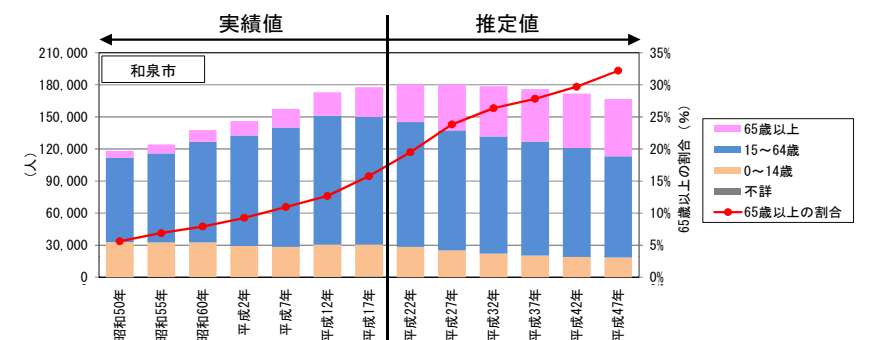
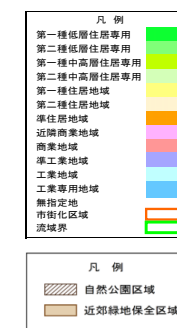
流域の特性（自然環境特性）

- 気候は瀬戸内海式気候（年平均降水量が少ない）
- 流域内に約280ヶ所のため池
- 上流部の和泉山地にはアヘマキコナラ群集等が広がる
- 「牛滝山のシラカシ林」（特定植物群落）、「泉穴師神社の森」（大阪みどりの百選）等が存在
- 魚類：オイカワ（上下流）、カワムツ（中上流）、メダカ・ドジョウ（中下流）
- 底生物：ヒメモノアラガイ、ゲンジボタル（上流部）
- 鳥類：コアシサシ、アオサギ、コチドリ



流域の特性（社会環境特性）

- 流域3市1町人口：約48万人（和泉市以外の人口横ばい、和泉市はH22国勢調査で増加率第2位）
- 将来人口は減少傾向、高齢者人口は大きく増加する予測
- 山地・荒地53%、宅地25%、農地15%程度
- 宅地増加→和泉中央丘陵新住市街地整備事業（トリヴェール和泉）等の整備推進
- 森林面積変化なし→金剛生駒紀泉国定公園、近郊緑地保全区域の指定

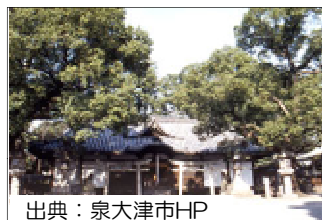


流域の特性（歴史・文化・観光）

- 池上・曾根遺跡（弥生時代の環濠集落）→「池上曾根遺跡公園」（当時の建物を復元）
- 観光レクリエーション施設が多く存在



1. 池上曾根遺跡



2. 泉穴師神社



3. 施福寺



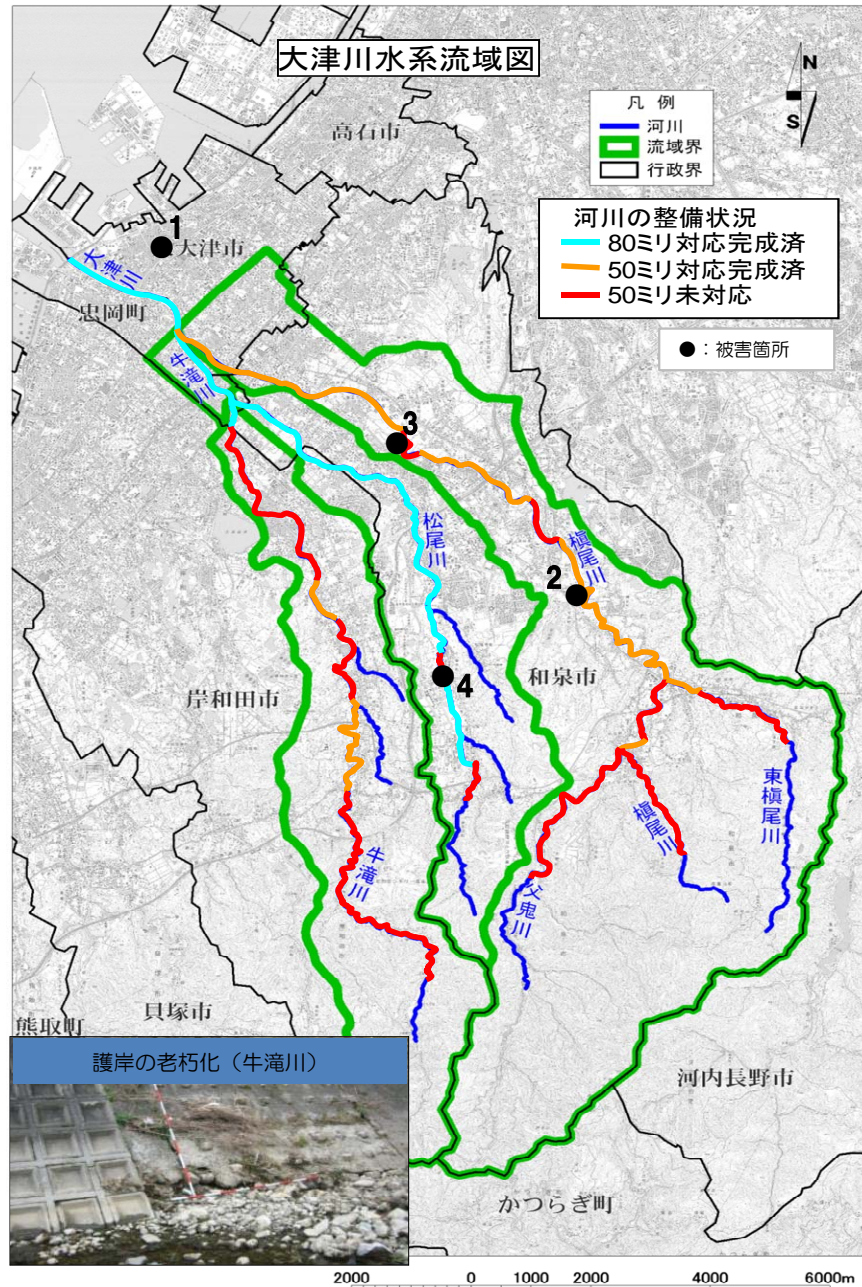
4. 和泉市立青少年の家

治水の現状と課題

- 昭和27年7月豪雨を契機に災害復旧事業に着手
 - 昭和46年より全体計画を定め河川改修を実施
 - 昭和57年8月の水害、関西国際空港の開港に伴う丘陵地開発等の進展により横尾川上流に治水ダムを計画/松尾川では開発者の直接施工も含め河川改修を推進
 - 平成21年6月にダム本体工事着手/平成23年2月に「ダムに頼らない河川改修」を選択
 - 高潮堤防は完成/東南海・南海地震等への対策を実施する必要がある
-
- 横尾川、牛滝川、松尾川では一部区間で護岸の老朽化
 - 大津川は土砂が堆積傾向
 - 牛滝川は土砂が堆積傾向（中流） / 松尾川は河床低下（下流）、洗掘による護岸崩壊も発生（中流）
 - 横尾川は土砂が堆積傾向（中流） / 東横尾川は横尾川合流付近で土砂が堆積傾向

<過去の災害>

昭和27年7月10日：既往最大の日雨量362.5mm（岸和田観測所）を記録。泉大津市、岸和田市を含む7市2郡で死者41名、浸水家屋約19万戸に被害が発生
 昭和57年8月1～2日：横山観測所では最大時間雨量37mm、総雨量388mmを観測。床上浸水168戸、床下浸水5,694戸
 平成7年7月3～4日：横山観測所では最大時間雨量46mm、日雨量192mmを観測。床上浸水11戸、床下浸水60戸



■昭和27年7月豪雨



1. 泉大津市役所玄関（泉大津市）

■昭和57年8月台風10号・豪雨



2. 横尾川川中橋下流（和泉市三林町）

■平成7年7月豪雨



3. 横尾川国府河頭井堰付近（和泉市阪本町）

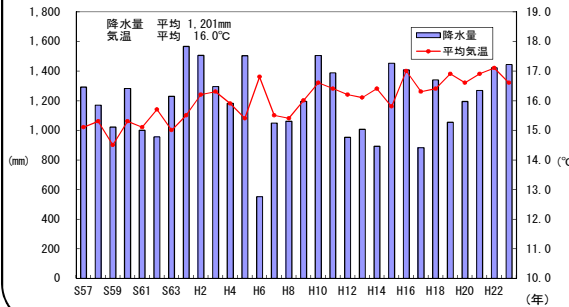
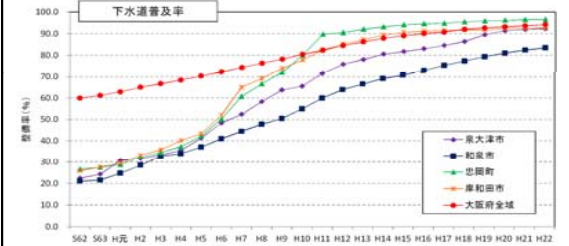
■平成23年9月台風12号・豪雨



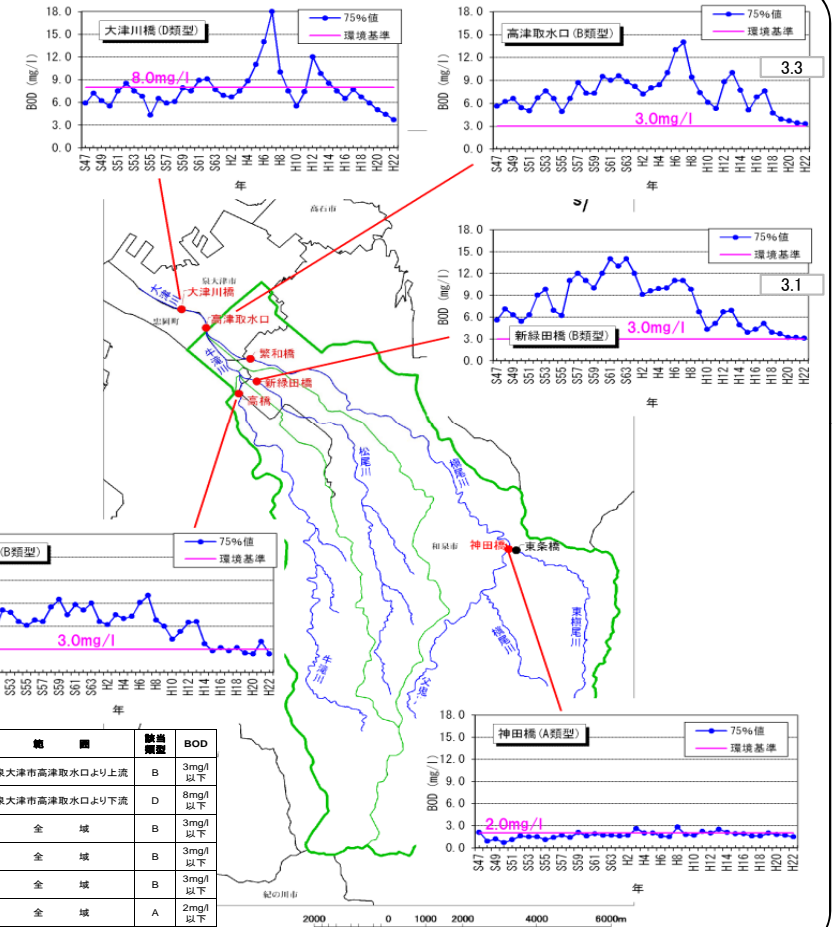
4. 松尾川冬堂橋下流右岸（和泉市春木町）

河川利用及び河川環境の現状と課題（水質）

- 大津川水系の環境基準（6地点）のうち、4地点で環境基準を達成（平成22年度調査結果）
- 各地点のBODは改善傾向
- 農業用取水堰が数多く設置されている



河川名	観測地点	観測年度	BOD
大津川上流	泉大津市高津取水口より上流	B	3mg/l以下
大津川下流	泉大津市高津取水口より下流	D	8mg/l以下
牛滝川	全域	B	3mg/l以下
松尾川	全域	B	3mg/l以下
横尾川	全域	B	3mg/l以下
交尾川	全域	A	2mg/l以下



河川利用及び河川環境の現状と課題（空間利用）

- 下流の高水敷を河川公園として活用
- アドプト・リバー・プログラム（認定団体20団体以上）
- 「ひつじ飼育による河川環境づくり」（松尾川）
- 地元小学校・NPO・和泉市等と連携した「水辺の学校」を開催（大津川、横尾川）
- 「ふるさとの川整備」（松尾川中流）、「ふるさと砂防事業」（牛滝川最上流）を実施
- ため池の保全と活用を中心とした「黒石地区ため池保全協議会」が発足（不法投棄や環境保全に対する取り組み）（横尾川流域）

河川公園（大津川）



アドプト・リバー



水辺の学校



流域の将来像

各市町の総合計画等

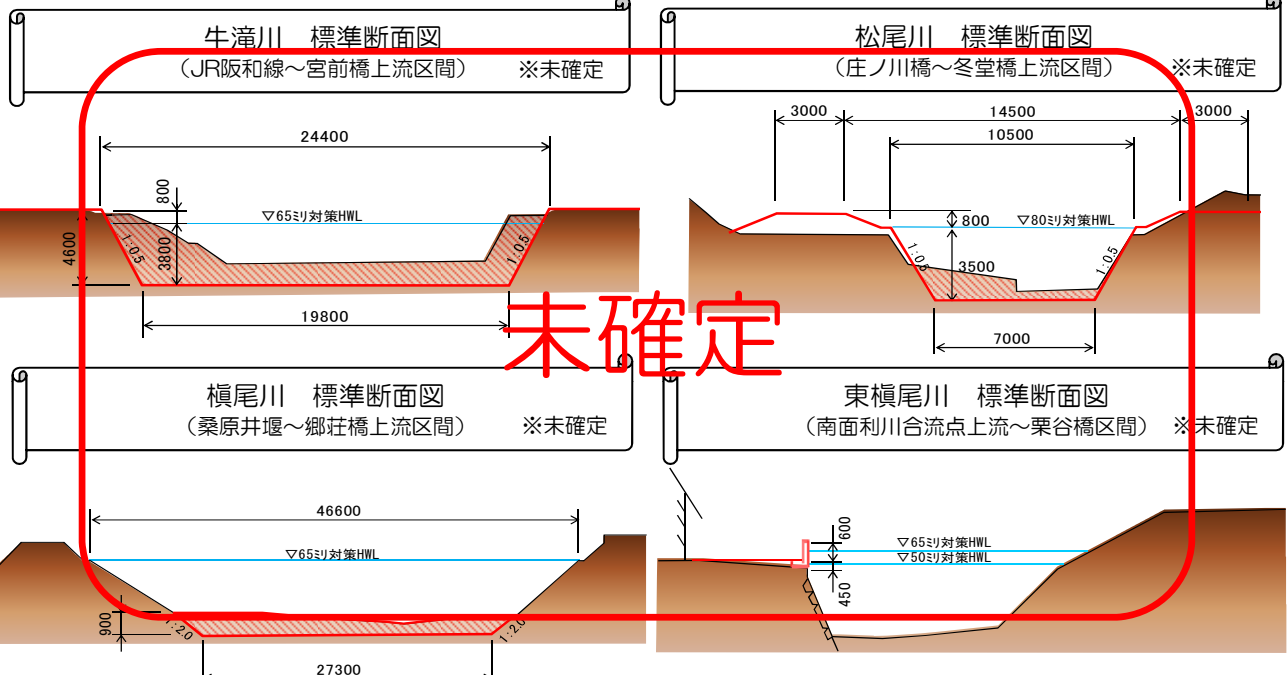
- 災害に強い都市基盤の整備
- 市民、事業者、行政の連携による災害に強いまち
- 自助、共助、公助が一体となったコミュニティ形成
- 安全に避難できるまち
- 緑地・水系を活かした水と緑のネットワーク形成
- 暮らしの中の水辺空間の創出
- 生きものがいっぱい自然を大切にする

河川整備計画の目標

過去に大きな浸水被害を経験し、近年も浸水被害が発生
 松尾川では丘陵地開発等に伴う改修を推進/事業中期間において護岸崩壊発生
 東南海・南海地震等への対策は未整備

整備内容	河川名	整備目標	整備対象区間(未確定)	整備延長(未確定)
洪水対策	牛滝川	65㍍程度	JR阪和線～宮前橋上流 (1.8km～5.5km) 稲葉橋上流～下橋下流 (7.7km～8.0km)	約L=4.00km
	松尾川	80㍍程度	庄ノ川橋～冬堂橋上流 (7.1km～7.8km)	約L=0.70km
	榎尾川	65㍍程度 (50㍍)	桑原井堰～郷荘橋上流 (3.4km～3.8km)	約L=0.40km
			小井堰～山深橋 (4.9km～5.2km) 城前橋下流～川中橋 (7.6km～8.0km)	約L=3.40km
			神田橋下流～宮前橋下流 (12.4km～13.7km) 父鬼川合流点～そす橋上流 (14.4km～15.3km)	
東榎尾川	65㍍程度 (50㍍)	新小路橋～塩谷橋 (1.0km～1.1km) 塩谷橋～南面利川合流点上流 (1.8km～1.9km) 南面利川合流点上流～栗谷橋 (2.1km～2.2km)	約L=0.30km	
耐震対策	大津川	-	河口～榎並橋下流 (0.2km～0.7km)	約L=0.90km

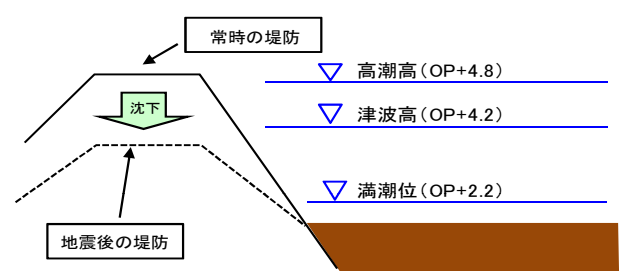
未確定



未確定

耐震対策 大津川 (河口～榎並橋下流区間) ※区間未確定

【堤防の耐震対策を実施】
 ● 河口部の護岸・堤防に対し、今後近い将来に発生が懸念されている東南海・南海地震等の海溝型地震を対象とした耐震補強を実施する。



河川の維持の目的、種類及び施行の場所

▷護岸の老朽化等が著しく進行
 ▷流域内には数多くの取水施設等が存在
 ▷アドプト・リバー認定団体が20以上、「水辺の学校」なども開催
 ▷水質については改善傾向にあるが、一部環境基準未達成

- 河川管理施設⇒劣化状況等の把握に努め、補修箇所の優先順位を定めて計画的に補修を行う
- 水衝部等災害が懸念される箇所⇒河床低下対策を実施/重点的な河床低下対策を実施中【松尾川中流（箕形橋～唐国橋）】
- 土砂の堆積等⇒定期的に状況を把握し、地先の危険度などを考慮して優先順位を定めて計画的に撤去を行う
- 河川空間の維持管理⇒さまざまな地域団体の活動や教育機関との連携に努め、地域住民とともに行う
- 水質⇒環境基準を満足することはもとより、多様な生物の生息・生育環境の保全等のため、地域との連携による河川への生活排水軽減に向けた環境教育・学習の推進及び啓発活動を進める



地域や関係機関との連携に関する事項

▷アドプト・リバー認定団体が20以上、「水辺の学校」なども開催
 ▷山地部は金剛生駒紀泉国定公園に指定されるなど保全されている
 ▷各市町の総合計画等でも森林、農地の保全が望まれている

- 今後、検討する事項（ため池や農地の活用、公共施設を利用した雨水貯留施設、雨水調整池の設置指導、森林保全、開発による流出抑制施設の恒久化など）
- 地域住民が中心となった「アドプト・リバー・プログラム」等の活動が流域全体に広がり、多様な主体による流域全体での治水・利水・環境への取組みが展開するように努める
- 榎尾川上流の山地部は比較的都市部に近い貴重な環境資源であることから、様々な主体（地域住民、大学、企業、和泉市等）との連携・協力により森・川・道を保全・再生し、広く府民の交流の場として活用されることを目指す



河川情報の提供に関する事項

▷流域内人口は横ばい、将来は減少傾向にあり、高齢者人口が大きく増加していく予測
 ▷各市町の総合計画等でも、自助・共助・公助が一体となったまちづくりが望まれている
 ▷過去に大きな浸水被害を経験し、近年も浸水被害が発生

- 地域特有の災害リスク（洪水・土砂災害等）を踏まえ住民が自ら行動できるきめ細かな避難体制づくり（自主防災組織の設立、防災リーダー育成等）に取り組む
- 関係市町が発表する避難情報や住民の自主避難の参考となるよう、さらに効果的な情報提供に努める

